

いじめについて



川本中学校2年 松村 麻友子

「いじめ」最近よくこの言葉を耳にします。いじめが苦で自殺する、というニュースが、毎日のように流れた時もありました。私は、なんで「死」を考えるんだろう、家の人に相談できなかったのかなあ、と思います。一人で考えこんでいると、ますます苦しくなるんじゃないかな、とも思います。でも、自分がいじめにあったときに、すぐ相談できるか、と言われたら、心配をかけたくないから、できないと思います。学校で、少し泣いたり、いやな事があった事もなかなか言えないのに、いじめにあつてしまったら、もっと言えないと思います。いじめている人は、なんでいじめめるのかな、と思つたことがあります。自分が気に入らないことがあると、「ムカツクから」「ワザイから」など、小さな事からいじめになつた例を聞いたことがあります。私は、そんな小さい事でいじめをするのは、よくないと思います。小さな事だけではもちろんありません。みんな、自分の言いたいことはそれぞれがうから、自分と少しちがうことを言つたくらいでいじめをするのはおかしいと思います。例えば、サッカーが好きなのもいじめれば野球が好きなのもいじめ、犬が好きなのもいじめればねこが好きなのもいじめます。みんなそれぞれの考え方があから、

大きな事ももちろん、小さな事でいじめをしてほしくない、私は思います。あと、気に入らないことがあるからいじめをする、とすぐそう決めるのではなくて、こんな小さな事でいじめられたらどうなのか、を考えてほしいです。いじめられる人は、みんな強い人ではないので、一生そのことを引きずって、人生が辛くなる人もいます。それが自殺につながると思うので、いじめは絶対してはいけないと思います。いじめを受けている人は、「死」を考えてしまふほど、辛いのだと思います。昨日まで楽しかった、みんなや、学校が、今日は辛いところになつてしまふと、私は、どうしていいかわからず、一人でなやむと思っています。それが長く続いている人は、やっぱり自殺してしまうのかな、と考えます。私は、そんなことがクラス、学年、学校そして全部なくなればいいな、と思います。ふだんにげなく生活している私の身のまわりには、いじめなんてない、と思つていても、起こつてしまふかもしれない。でも、そんなことは起こらないように、意識して、生活したいです。私は、いじめを受けたことも、いじめをしたこともありません。いじめられている人にとっては、私たちのような生活が幸せなのかもしれない。私は、いじめを受けたことがないので、いじめられている人、いじめられた人の深い傷、なやみ、辛さは全部はわかりません。いじめをなくすために、一人一人、みんながそれぞれがうこと、人を思いやる気持ちを、毎日、切り離さないように生活していきたいです。これ以上、いじめで苦しむ人を出さないために、人の気持ちを考えて行動したいです。

夢

なかるべからず

スクリーンの裏側で

竹石 研二さん



銀幕に映るもの
画のスクリーンを「銀幕」と呼ぶ。それは、スクリーンに銀皮膜を塗って、反射率を高めたことに由来する。その銀幕に投影されるのは、知恵や勇気、喜びや悲しみ、他者への尊敬など、金色に輝く命

である。その輝く命を、地元の人たちの前で映し出せないか。銀幕の裏側からそれに懸けた男がいる。
NPO法人市民シアター・エフ理事長 竹石研二。
月間三千人が見つめたスクリーンは、今、新たな銀皮膜が塗られようとしている。

Book

ふかや必読書30



『ひろしまのピカ』

丸木 俊



昭和20年8月6日、原子爆弾の光が広島空を貫きました。視覚からも原爆の恐ろしさを訴えかけてくる絵本です。これが現実にあったことを忘れず、原爆の恐ろしさを語り継ぎたいですね。

感想 みんなの

常盤小学校5年 梅本 広太

この本を読み始めて、本当に、この平和な日本であつた事なのかなと思いました。原爆が落とされ、広島は火の海に包まれました。主人公のみいちゃんは、体がボロボロになつても、たくましく生きのびます。人間で強いな、と思いました。

ぼくは、人や動物が残こくな亡くなり方を戦争が大嫌いです。こんな戦争は、世界中からなくなつてくれればいいな、と心から思いました。

Letter

ありがとうの手紙



深谷市長賞 (特別賞)



地域からの恩恵にありがとう

東大沼 橋本 アイ子さん

私は昭和二十一年三月、当時夫の勤務地中国の北京から故長男四歳の遺骨、長女一才の三人で夫の実家に三ヶ月寄寓し、六月末日現在地に移住、現在に至つてゐる。夫は過労から肝臓病で昭和二十四年十二月に五才、三才、一才の三幼児を残し他界。世帯主となった私は、子どもを実家に依頼、美容学校へ入学、免許取得、百合美容院を開業、現在に至つてゐる。

深谷は治安よく、生活物資も豊富、人情味厚く、これらの恩恵により、今日、私は九十才にて健康に恵まれ現役です。地域さん ありがとう。

文字にした心

最初に観た映画は時代劇三本立。立錐の余地のない中、夢中で見入つた。

やがて、多感な少年の例に漏れず、興味は野球、フットボールへと移つていく。そんな中、学生運動が激しさを増し、否が応でも社会について考えざるを得ない時代となつていた。社会から取り残されそうな張りつめた危機感の中、自分の存在理由を自問した。とりあえず自分を表現する道を求め、映画制作の



取材時のプログラムはアカデミー賞受賞作「おくりびと」。平日お昼の上映でも満席だった。

専門校に入った。27歳、一児の父になつていた。卒業後、夫人の故郷深谷に転居。映像の世界から一時退いた。子どもも三人となり、不満のない生活を送つていた。しかし、50歳になる時、ふと、自分のこれからの文字にしてみた。気

持ちが「文字」という映像で飛び込んできた。そこには「深谷でミニシアターを作る」と書かれていた。「今」しかないと思つた。

「深谷シネマ」

「空」シネマを利用した「深谷」は平成14年。労は多々あつたろうが、決して口に出さない。

その愛着ある場所からもうすぐ移転する。費用は数千万円に上り、資金の捻出はお客様の善意に依るところが大きい。予定ではスクリーンが少しだけ大きくなる。大きくなるスクリーンに、再び金色の命が投影される。対照的に静寂なその裏側では、映画に対する飽くなき情熱が、燃やされ続けていく。

夢七訓

夢なき者は理想なし
理想なき者は信念なし
信念なき者は計画なし
計画なき者は実行なし
実行なき者は成果なし
成果なき者は幸福なし
ゆえに 幸福を求める者は夢なかるべからず※

※洪澤栄一が残したとされる「夢七訓」より。「夢なかるべからず」は「夢を持たないといけません」という意味。